

# 研究集録に寄せて

宮城県連合中学校教育研究会  
技術・家庭科部会  
部会長 宍戸 健 悦

平成28年度は、東日本大震災からの復興を進めている石巻市で「第58回宮城県中学校技術・家庭科研究大会」が多くの会員の参加を得て開催できましたことに感謝申し上げます。また、平成26年度から研究実践を積み重ねてきた、研究主題『「生活で活用できる力」の育成を目指して～「つながり」を深める指導の工夫～』のもと、平成27年度に、「第55回東北地区中学校技術・家庭科教育研究大会宮城・仙台市大会」を開催し、そして今年度は、その3年間の研究のまとめをすることができました。これまでの「つながり学習」では「気づく段階」「考え、学ぶ段階」「生かす段階」と指導内容を段階的に工夫することにより、生活で活用できる力の育成を図ることを目指して研究を進めてきました。基礎・基本の内容や既習事項をもとに段階的につながり学習を展開することによって、学習内容の定着と生活に生かすための発展的な課題解決につながる研究実践を行うことができ、次期学習指導要領の示す「社会に開かれた教育課程の実現」の趣旨を具現化するためにも参考になる研究になったと考えます。

さて、近い将来には進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代が到来し、社会や生活を大きく変えていくという予測がなされています。しかし、どんなに進化した人工知能でも、与えられた目的の範囲の中での処理でしかありません。人間には、感性を豊かに働かせながら、どのように社会や生活をよりよいものにしていくのか、そのための技術はどのようにあったらよいのか等について、目的や方法を自ら考え出すことができる力が求められてきます。まもなく次期学習指導要領が告示されます。技術・家庭科において育成すべき「資質・能力」等についての理解と準備を今後一層進めていかなければなりません。

このようなことから、本県の新たな研究の方向性については、これまでの研究の成果を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実践を通して「これからの社会を生きぬくために必要な力」の育成を目指した研究を進めていきたいと考えています。併せて次年度以降の研究會運営の在り方についても見直しを検討しているところです。今後、県内各地区会員の一層の連携と結束で、平成33年度の学習指導要領完全実施と次回の東北大会の開催を念頭に置き、一步一步着実に研究実践を進めていきましょう。

結びになりますが、この度の「平成28年度宮城県中学校技術・家庭科研究部会研究集録」は、昨年度に続き Web 上での発表となります。これまで県研究大会や各地区での研究活動の中でご指導をいただきました関係諸機関の皆様へ深く感謝申し上げます。また、研究に真摯に取り組んでこられた先生方に改めて敬意を表しますとともに研究の成果を今後の実践に広く生かしていただくことを祈念して発刊のご挨拶といたします。